

# 緑肥（クリムソクローバー）による水稻栽培について

坂井農林総合事務所

## 《ポイント》

- ① 緑肥の播種には排水対策が必須
- ② 緑肥のすき込みは生育量に応じて、遅れずに
- ③ すき込み後7～10日間は水を入れずに分解促進
- ④ 田植え後、初期の生育遅れは気にせずに
- ⑤ 時には穂肥施用や倒伏軽減剤の対応が必要になるときも…



## 【緑肥あとコシヒカリ栽培暦】

時期	作業	備考
9月	排水溝の設置	大麦圃場準備と同様に
10月上旬	緑肥播種	播種量 3～4 kg/10a
4月下旬～5月初旬	緑肥すき込み *ロータリで2回耕耘、もしくはモアで破碎後の耕耘も効果的 *開花後は茎が硬くなり、分解しにくくなる	50cm×50cm の生重量が 400～500g ぐらいですき込み（目安の草丈は 20～30cm）
(7～10日間)	畑地状態で放置	ワキ軽減、分解促進
	入水、代かき	
5月中旬頃	田植え	坪あたり 50～60 株
7月上旬頃	幼形期の生育状況を見て穂肥の必要性、倒伏の可能性を判断	

## 【参考】

### 緑肥播種



排水対策が重要  
条播も可能

モアで粉碎後すき込むこともできる

### すき込み



この生育量で窒素量換算で 5.8 kg/10a 程度が投入される見込み

# 融雪後の栽培管理について

(4月下旬頃)

## ① 緑肥（クローバー）の生育量測定



クローバーの生育量を量り、肥料となる量を推定する。

目安は、50cm 四方のクローバーを刈り取った量で 400~500 グラム

また、草丈で 20~30cm 程度あればすき込む



(4月下旬~5月上旬)

## ② クローバーすき込み



トラクタでゆっくりとすき込む。

モーターで粉碎後にすき込むか、2回耕耘する方が効果的。



## ③ 畑地状態で分解促進

すき込んだ後はすぐに入水しない！

(約7~10日間)



(5月中旬頃)

## ④ 入水・代かき、田植え

コシヒカリであれば、坪あたり 50~60 株で植え付ける。

“①”で測定したクローバーの量が少なければ、基肥を施用。



(7月上旬頃：幼穂形成期)

## ⑤ 生育診断の実施

草丈が小さい、茎数が少ない、葉色が薄い、などの場合は穂肥を施用。

逆に生育が良すぎる場合には、倒伏に注意！